

第80期 営業の中間ご報告

2022年4月1日～2022年9月30日

証券コード9362

# HYOKI-NOW



Report at half year 2022

## 経営理念

1. 私達は、専門知識の修得に努め、高度な見識をもって常に現状の改善をめざします。
2. 私達は、感謝の気持ちと謙虚な心をもって業務に励み、信頼される会社を築きます。
3. 私達は、総合物流業者として、その業務を通じて社会に貢献します。

平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第80期上半期（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の事業の概況並びに決算の結果をご報告申し上げます。

2022年12月



代表取締役社長  
大東 洋治

### ■ 事業の概況

当上半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス対策の行動制限緩和によるリベンジ消費が下支えし、個人消費は堅調に回復しました。また、設備投資の活発化や人手不足感も見られることから、企業においても景気回復の明るい兆しが確認できました。一方で、前期末から続くウクライナ危機に伴う原材料高、断続的な中国のロックダウンによる物流停滞、オミクロン株の感染拡大による消費マインドの不安定化、及び米国の利上げの影響による急激な円安など、数々の障害があるなか、予断を許さない状況で推移しました。

このような状況下におきまして、当社グループは「安全・迅速・信頼」をモットーに、国民生活と企業活動のライフラインを支える物流業者として、如何なる時世にも顧客に対する輸送責任を果たす「堅実な兵機」との信頼を得るべく、事業展開を進めてまいりました。

内航事業では、船舶燃料油価格の高止まりや船舶建造費の高騰などによるコスト負担増が続いております。また、天候不良の影響を受け航海数及び輸送取扱いトン数が伸び悩みました。

外航事業では、極東ロシア航路の主力貨物は輸出停止となりましたが、委託船による建機類の輸送やスポット貨物の新規受注により、前年同期実績を大幅に上回る売上・利益が確保できました。

港運事業では、海上運賃高騰や海上コンテナ不足などの混乱は、需給バランスの改善により落ち着きを取り戻しつつあります。新規貨物受注に努め、前年同期実績を上回る利益を確保しました。

倉庫事業では、神戸及び姫路地区の危険物倉庫は、高稼働率が続いており堅調に推移しました。また、保管・荷役作業に加えて付帯作業を受注し、営業利益率を大きく向上させました。

これらの結果、当上半期の実績は、次のとおりとなりました。

当上半期の取扱輸送量は1,948千トン（前年同期比289千トン増117.4%）と増加し、売上高は9,437百万円（前年同期比2,158百万円増 129.7%）と増収になりました。また、営業利益は527百万円（前年同期比294百万円増 226.8%）、経常利益も577百万円（前年同期比328百万円増 231.8%）と増益になりました。親会社株主に帰属する中間期純利益は408百万円（前年同期比241百万円増 243.6%）と増益になりました。

### ■ 通期の見通し

下半期も米国は記録的なインフレを抑制するため、景気を冷ます施策を継続すると予想されます。日米経済は密接に結びついており、米国が景気後退に陥れば日本も影響を受けかねません。上半期に大きく利益貢献した外航海運市況も一旦落ち着くと予想されるなか、米国の利上げ継続の影響で円安基調が続いた場合、ドル建て海上運賃の収益を他のセグメントの高コスト継続が相殺すると懸念されます。

兵庫埠頭物流センター内に3棟目となる危険品倉庫が、11月から新設稼働しました。満床状態が緩和され危険品取扱いの更なる収益拡大を目指します。一方で、高築年齢を迎えた既存倉庫施設の修繕予定があり、一時的に倉庫事業の営業利益を押し下げます。しかしながら、この修繕は中長期的に見れば、資産を適正に管理・活用していくために必要な、戦略的マネジメントとして不可欠なメンテナンスと位置付けております。

また、人材確保や従業員への教育・技能投資を積極的に行い、働き方改革推進や従業員のスキルアップを通じて収益力の更なる改善につなげてまいります。

なお、前期より続いている船舶燃料油価格高騰を始めとする原価高騰への対応は、喫緊の経営課題と認識しております。高品質の輸送サービスを維持するためにも、顧客にご理解をいただいたうえで価格転嫁を進め、営業利益率の改善に努めてまいります。

### ■ 配当について

当社は「グループの業績及び今後の事業展開を勘案した安定的かつ積極的な配当」と定め、安定配当を基本としつつEPS（1株当たり当期純利益）が100円を上回る場合は、配当性向30%レベルまたは1株当たり50円のいずれか高い基準での配当を方針としております。

この方針に基づき、当期（第80期）の期末配当につきましては、普通株式1株につき115円を予定しております。

100年企業を目指し、役員一丸となり社業の発展に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

## ■ HYOKI

### 内航事業

- 内航海運
- 内航海運利用運送
- 船舶代理店
- 海陸一貫輸送（トラック継配輸送を含む）

### 外航事業

- 外航海運
- 外航海運利用運送
- 船舶代理店
- 近海定期船事業
- 不定期船事業

### 港運事業

- 通関並びに輸出入貨物取扱
- 各種検査及び食品衛生法等の代理手続
- 国際複合一貫輸送
- コンテナ並びにトラック配送

### 倉庫事業

- 重量貨物の保管
- 定温保管
- 梱包並びに小口仕分配送作業
- 貨物のコンテナ詰め出し作業
- 危険物取扱

## ■ 事業別の概況

### 内航事業

当上半期は、台風等の天候不良の影響による停船を余儀なくされ、航海数及び輸送取扱トン数ともに伸び悩みました。また、船舶建造費用及び定期ドック費用の高騰、並びに船舶燃料油価格は前年同期比で22%増となる燃料コストの高止まりが続いております。売上は前年同期並みを確保しましたが、所属船への備料値上げ並びに管理経費の増加が影響して、内航事業の収益を押し下げました。

結果としまして、売上高は3,358百万円(前年同期比195百万円増 106.2%)と増収になりましたが、営業利益は114百万円(前年同期比1百万円増 101.4%)と売上増加率に比しても微増の結果となりました。

### 港運事業

新型コロナウイルス感染の影響により、一昨年から前期まで続いていた北米、欧州の港湾労働者不足や海上コンテナ不足による世界的な物流の混乱は落ち着きを取り戻し、海上運賃も高止まりから下落傾向に転じました。一方で、断続的な中国のロックダウンは、原材料や製品の輸出入遅延や取り止めなど、国内産業に幅広く影響を与えました。当社港運事業においてもスケジュールの見直しを強いられました。

結果としまして、売上高は3,570百万円(前年同期比751百万円増 126.6%)、営業利益も84百万円(前年同期比21百万円増 134.7%)と増収増益になりました。

### 外航事業

極東ロシア航路において前期まで定期的に海上輸送をしていた主力貨物は、ウクライナ危機の影響により輸出停止となり、運航計画を見直しました。しかしながら、委託船による建機類の輸送を継続できたこと、また、当社が得意とする台湾・韓国・中国向け近海航路が堅調に稼働したことに加え、中央アジア向けや豪州向け三国間輸送などのスポット貨物も新規受注しました。更には、円安影響によるドル建て海上運賃の収益改善や固縛資材再利用による経費削減も実施しました。

結果としまして、売上高は1,677百万円(前年同期比1,088百万円増 285.1%)、営業利益は231百万円(前年同期比211百万円増)と大幅に増収増益となりました。

### 倉庫事業

高付加価値サービスとして注力している危険品貨物の取扱量の増加、及びISOタンクコンテナの保管・作業が堅調に推移しました。また、姫路地区においては、鋼材の輸出コンテナ作業の新規取り扱いにより利益を押し上げました。更には、コンテナ貨物作業に付帯する梱包作業なども積極的に受注し、利益の下支えができました。一方で、普通品倉庫での取り扱い貨物は管理費等のコスト増に対して価格転嫁が進まず、苦戦を強いられました。

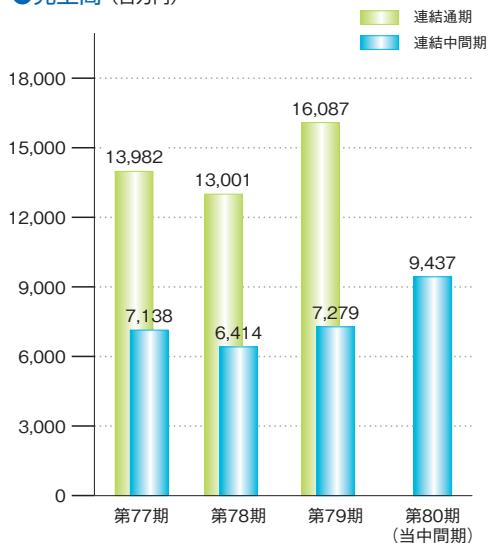
結果としまして、売上高は831百万円(前年同期比123百万円増 117.4%)、営業利益は96百万円(前年同期比60百万円増 266.4%)と増収増益になりました。

(単位：百万円)

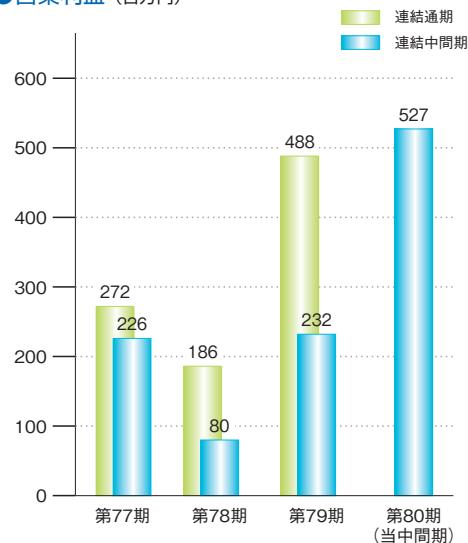
事業 (連結ベース)	売上高			営業利益			
	前中間期	当中間期	増減	前中間期	当中間期	増減	
内航事業	3,163	3,358	195	112	114	1	
外航事業	588	1,677	1,088	20	231	211	
港運・倉庫事業	3,527	4,402	874	99	181	82	
合計	7,279	9,437	2,158	232	527	294	

## ■ 事業実績の推移

### ● 売上高 (百万円)



### ● 営業利益 (百万円)



## ■ 業績と財産 (連結ベース)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2021.4.1から2021.9.30まで	2022.4.1から2022.9.30まで	2021.4.1から2022.3.31まで
売 上 高 (百万円)	7,279	9,437	16,087
営 業 利 益 (百万円)	232	527	488
経 常 利 益 (百万円)	249	577	523
親会社株主に帰属する中間期(当期)純利益 (百万円)	167	408	358
総 資 産 額 (百万円)	11,386	12,578	12,618
純 資 産 額 (百万円)	3,283	3,792	3,456
1 株 当 た り 中 間 期 ( 当 期 ) 純 利 益	143円41銭	347円48銭	305円94銭
1 株 当 た り 純 資 産 額	2,795円36銭	3,212円06銭	2,942円72銭

# CONSOLIDATED FINANCIAL DATA

## ■ 中間期連結決算の状況

### 中間期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前中間期末 2021.9.30現在	当中間期末 2022.9.30現在	前 期 末 2022.3.31現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,472	3,835	3,922
現金及び預金	1,657	1,833	1,964
受取手形	28	35	29
売掛金	1,586	1,684	1,687
短期貸付金	13	5	6
その他	186	276	234
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0
固定資産	7,914	8,743	8,695
(有形固定資産)	(6,150)	(7,041)	(7,006)
建物・建物付属設備	3,350	3,167	3,255
船舶	834	705	774
土地	1,526	2,566	2,566
リース資産	88	119	83
建設仮勘定	—	165	0
その他	350	317	326
(無形固定資産)	(94)	(80)	(83)
借地権	4	4	4
リース資産	66	49	57
その他	22	26	20
(投資その他の資産)	(1,669)	(1,621)	(1,606)
投資有価証券	1,568	1,560	1,523
長期貸付金	22	3	5
その他	88	66	86
貸倒引当金	△ 10	△ 9	△ 9
<b>資産合計</b>	<b>11,386</b>	<b>12,578</b>	<b>12,618</b>

科 目	前中間期末 2021.9.30現在	当中間期末 2022.9.30現在	前 期 末 2022.3.31現在
<b>負債の部</b>			
流動負債	4,182	4,356	4,571
支払手形	188	220	202
買掛金	902	932	998
短期借入金	2,830	2,839	2,949
リース債務	45	46	43
未払法人税等	81	184	148
未払消費税等	15	23	11
賞与引当金	3	3	3
その他	115	106	214
固定負債	3,920	4,430	4,589
長期借入金	3,234	3,764	3,946
リース債務	87	79	65
繰延税金負債	102	97	83
退職給付に係る負債	447	446	445
未払役員退職慰労金	11	11	11
船舶修繕引当金	13	31	24
デリバティブ債務	23	—	12
<b>負債合計</b>	<b>8,102</b>	<b>8,786</b>	<b>9,161</b>

<b>純資産の部</b>			
株主資本	2,692	3,192	2,887
資本金	612	612	612
資本剰余金	33	33	33
利益剰余金	2,150	2,638	2,345
自己株式	△ 104	△ 91	△ 104
その他の包括利益累計額	591	599	569
その他有価証券評価差額金	608	599	577
繰延ヘッジ損益	△ 16	0	△ 8
<b>純資産合計</b>	<b>3,283</b>	<b>3,792</b>	<b>3,456</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>11,386</b>	<b>12,578</b>	<b>12,618</b>

### 中間期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2021.4.1から2021.9.30まで	2022.4.1から2022.9.30まで	2021.4.1から2022.3.31まで
売 上 高	7,279	9,437	16,087
売 上 原 価	6,187	7,988	13,747
売 上 総 利 益	1,091	1,449	2,339
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	858	922	1,851
営 業 利 益	232	527	488
営 業 外 収 益	35	72	79
営 業 外 費 用	19	22	44
経 常 利 益	249	577	523
特 別 利 益	—	6	1
固 定 資 産 売 却 益	—	6	—
投 資 有 価 証 券 売 却 益	—	—	1
特 別 損 失	8	—	8
訴 訟 関 連 損 失	8	—	8
税金等調整前中間期(当期)純利益	240	583	516
税 金 費 用	72	174	—
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	—	—	167
法 人 税 等 調 整 額	—	—	△ 9
中 間 期 ( 当 期 ) 純 利 益	167	408	358
非支配株主に帰属する中間期(当期)純利益	—	—	—
親会社株主に帰属する中間期(当期)純利益	167	408	358

### 中間期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2021.4.1から2021.9.30まで	2022.4.1から2022.9.30まで	2021.4.1から2022.3.31まで
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	120	420	633
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 43	△ 149	△ 1,061
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 419	△ 423	379
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	21	13
V 現金及び現金同等物の増減額(減少△)	△ 341	△ 131	△ 34
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,999	1,964	1,999
VII 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,657	1,833	1,964

※連結財務諸表の記載金額は表示単位未満の端数を切り捨てております。

## ■ 株式の状況

(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	4,000,000株
発行済株式の総数	1,224,000株 (内 自己株式 39,641株)
資本金	612,000,000円

## ■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
共栄火災海上保険株式会社	91,300	7.70
ふたば会(取引先持株会)	53,715	4.53
株式会社みなと銀行	43,500	3.67
有限会社山広運輸興業	40,400	3.41
兵機海運株式会社従業員持株会	34,246	2.89
株式会社三井住友銀行	30,200	2.54
楽天証券株式会社	30,100	2.54
大東 洋治	21,200	1.78
株式会社りそな銀行	18,700	1.57
株式会社SBI証券	17,346	1.46

(注) 上記以外に自己株式を39,641株保有し、持株比率はこれを除いて算出しております。

財務情報等については、当社ホームページの「IR情報」をご覧ください。

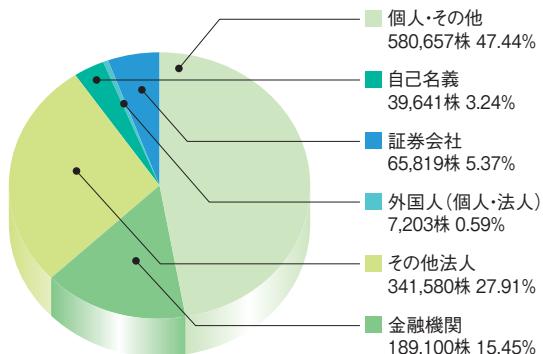
<http://www.hyoki.co.jp/contents/ir/index.html>



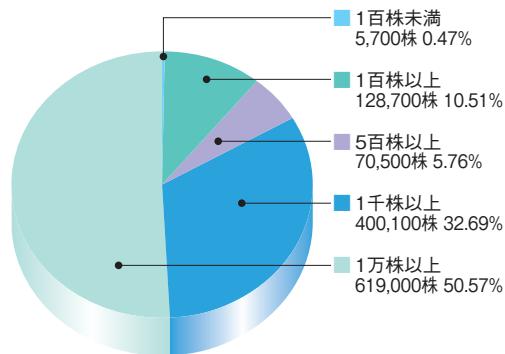
▲こちらより  
ご覧いただけます



## ● 所有者別株式分布状況



## ● 所有株数別株式分布状況



## ■ 会社の概要

(2022年9月30日現在)

商号	兵機海運株式会社 HYOKI KAIUN KAISHA,LTD.
設立	昭和17年12月30日（1942年）
主な営業種目	内航海運業 外航海運業 港湾運送業並びに港湾運送関連事業 倉庫業 通関業 貨物利用運送業 輸出入貨物取扱業 国際複合輸送業
連結従業員数	236名
役員	代表取締役社長 大東洋治 代表取締役専務 平井清隆 (営業本部長 安全統括担当) 常務取締役 橋田光夫 (外航事業担当 AEO総括管理責任者) 常務取締役 大東慶治 (営業副本部長 倉庫部長 AEO法令監査責任者) 取締役 内田一彦 (姫路支店ヤマトスチール事業部統括部長) 取締役 松本利晴 (常勤監査等委員) 社外取締役 五島大亮 (監査等委員 独立役員) 社外取締役 濱田在人 (監査等委員 独立役員)

## ■ 主な事業所

本社(営業本部・財務部・管理部・AEO管理室)  
〒650-0045 神戸市中央区港島3-6-1 ※1  
TEL(078)940-2351~2354

本社営業部 TEL(078)940-2361~2362・2367 ※1

### 通関部

神戸事業所 TEL(078)940-2360 ※1  
大阪事業所 TEL(06)6616-5344 ※5

### 倉庫部

神戸物流センター TEL(078)940-2364 ※1  
兵庫埠頭物流センター  
〒652-0845 神戸市兵庫区築地町7番22号  
TEL(078)515-6791

### 内航海運部

神戸運航課 TEL(078)940-2368 ※1  
姫路運航課 TEL(079)234-5241 ※2  
水島運航課 TEL(086)523-0211 ※3  
東京運航課 TEL(03)3563-1291 ※4

### 外航部

営業課(東京) TEL(03)3563-1291 ※4  
運航課 TEL(078)940-2366 ※1  
国際輸送課 TEL(078)940-2363 ※1

### 東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-14 ※4  
TEL(03)3563-1291

### 大阪支店

〒559-0033 大阪市住之江区南港中6-3-44 ※5  
TEL(06)6616-5341

### 姫路支店

〒672-8064 姫路市飾磨区細江浜万才1310 ※2  
TEL(079)234-5241

### 中国支店

〒713-8103 倉敷市玉島乙島6885-3 ※3  
TEL(086)523-0211

## 兵機海運のウェブサイトのご案内

お届けした株主通信「HYOKI-NOW」は当社ウェブサイトにも掲載いたします。  
また今回は、創業80周年を記念して「HYOKI VIEW」ウェブサイト限定コンテンツを完成次第掲載いたします。ぜひご覧ください。

モバイル端末でご覧になりたい方はこちらから



こちらの二次元バーコードを読み取っていただくとページのURLが表示されます。URLをクリックいただくと簡単にアクセスできます。



こちらをクリック

パソコンでご覧になりたい方はこちらから

兵機海運 株主通信

検索

<http://www.hyoki.co.jp/contents/ir/communication.html>



### お知らせ

環境負荷低減の観点から、これまで冊子でお届けしておりました株主通信を次回2023年6月発行以降は紙面での発行・郵送を取り止め、当社ウェブサイトに掲載を予定しております。ご理解のほどよろしくお願いたします。

## ■ 株主MEMO

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 電話お問い合せ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (通話料無料) 受付時間 9:00～17:00 (土日休日を除く) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
よくあるご質問(FAQ)	<a href="https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal">https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal</a>
公告方法	当社ホームページに掲載いたします。但し、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、朝日新聞に掲載いたします。 ホームページアドレス <a href="http://www.hyoki.co.jp/">http://www.hyoki.co.jp/</a>
単元株式数	100株
株式市場	東京証券取引所 (スタンダード市場) 証券コード9362

### 【特別口座の口座管理機関について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構) を利用されていなかった株主様には、三菱UFJ信託銀行株式会社に特別口座を開設しております。

特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求等の各種お手続き等は、株主様の口座のある証券会社にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きは、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行株式会社) にお問い合わせください。
3. 未受領配当金のお支払いにつきましては、上記の株主名簿管理人 (三井住友信託銀行株式会社) にお申出ください。



HYOKI KAIUN KAISHA, LTD.

 兵機海運株式會社

〒650-0045 神戸市中央区港島三丁目6番地1

電話 (078) 940-2351 ホームページ : <http://www.hyoki.co.jp/>